

概 要

ご承知のように昨今の国内における旅行形態は団体旅行から個人旅行へと移行しております。そのような旅行形態の変化にともない国内外の旅行者はより多様な商品やサービスに触れる機会を期待していると言えます。外部からのニーズに対応するべく、以下のことを推進してまいります。

1. 小豆島の魅力発信の強化

瀬戸内海国立公園という比類ない魅力のある地域を電子媒体（ホームページ、Facebook など SNS）、紙媒体（パンフレット、マップなど）を駆使して国内外に発信いたします。日本語の広報媒体はもとより英語、繁体字、簡体字など外国語に順次翻訳し、国内外での商談会など PR の機会に誘客促進できる媒体の作成をおこないます。

2. 国際化の推進とセミナーの継続的な開催

平成27年2月に発足した小豆島観光国際化チームは小豆島中央高校との共同活動や観光施設、産業施設などでの英語案内など活動の輪を広げてまいります。またこれまで35回以上おこなってきた、主催セミナー「まるごと小豆島」を継続し、国際的な文化や小豆島の魅力を受講生と共に学びながら、観光地域づくりを考える機会を持ちます。

3. 小豆島フィルム・コミッション事業

小豆島観光協会定款第4条にあるフィルム・コミッション事業に基づき、映画、テレビ、Web、ラジオ、新聞、雑誌など様々なメディア媒体の撮影に協力し、メディアを通して小豆島の魅力を発信します。また、島民によるエキストラ協力やロケ地提供は地元で自信と希望を与えるものと捉え、撮影の受け入れを積極的におこないます。

4. 小豆島の持つ食文化を広める

400年以上の歴史を誇る伝統産業や海の幸、山の幸を消費者に広めブランド認識を高めるため、飲食店を展開する企業や金融機関と協力して食を安心して提供できる関係を築きます。小豆島の「食」のブランド認識が高まることは小豆島全体の知名度向上に繋がると考えます。

5. A team One Shodoshima

「小豆島に行きたい」という来島者の気持ちを大切に、地域の元気を取り戻すため島内外の他団体と協力してイベントなどを共催いたします。人口減少が進み、将来に不安の残す今こそ単体での活動や考え方ではなく、未来を見据え小豆島が一体となった活動が重要です。

6. 産業や文化と観光を繋げる

醤油蔵の見学やブレンド体験、素麺の箸分け体験、オリーブの収穫体験など「産業と観光の融合」や農村歌舞伎舞台の見学、霊場巡りなど「文化と観光の融合」によって新たな付加価値が生まれ、旅行者の満足度が更に高まるものと思います。また、歴史ある産業や文化と観光を結びつけることが小豆島観光協会の役目と考えています。

今年は瀬戸内国際芸術祭2019の前年にあたります。更なる飛躍のために各関係機関との連携を深め、小豆島がひとつになって事業を推進していかねばなりません。